

21PO-am405S

自律性を重視した Flipped peer learning の学習経験を経て—アンケートおよびインタビューを介した学習過程の評価—

○合田 奈央¹, 阿達 早紀¹, 藤山 幸子¹, 前田 佑子¹, 清水 美希¹, 白木 裕之¹,
林 真凜¹, 小山 淳子¹, 和田 昭盛¹, 児玉 典子¹ (¹神戸薬大)

【背景】自律的学習とは、自ら学習の意義や価値を見出し、学習の目的・目標を設定でき、計画を遂行し、評価・判断して行動することである。学習者が自律的学習の第一段階（意識化）から目標達成までの過程を自ら評価することは、学習意欲及び自己効力感の向上に繋がると考える。我々はこれまで学習意欲及び学習能力の向上を目指した Flipped peer learning (FPL) を実施してきた。そこで、より効果的な FPL を検討するために、学習者に自律的学習過程を意識させるとともに、学習過程を評価させることを目的とした。

【方法】7名の学習者が集まり、薬物治療学 I に対して自律的学習過程を意識させる FPL を行った。まず、自分の勉強方法を意識化し、目標設定及び学習計画を立て(step①)、計画遂行(step②)、評価(step③)を1サイクルとし、これを9サイクル実施した。1及び9サイクル終了時に学習態度、学習能力、学習意欲に関する意識調査（自由記述）を行い、自律的学習過程の step①～③での評価に関するインタビューは9サイクル終了時に行った。また、毎回学習後にチェックシートを用いて自らの目標を確認することによって目標の意識づけを行った。

【結果・考察】意識調査結果から、授業の理解度や学習態度の向上がみられた。また、インタビュー結果から、学習者は学習過程での問題点を発見し、その解決法を検討するとともに、次に学習する際もこの学習方法を使ってみようという前向きな意見が得られた。このように、学習のプラス効果と自律的学習過程の評価を意識づけることは、学習者の自己効力感を向上させる手段の一つとなり、より効果的な FPL が期待できると考える。